

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 富島 千晴
所属 (School) 理学系研究科 物理科学専攻
学年 (Grade) 博士後期課程 1年

留学先 (Name of overseas institution)
オレゴン州立大学
留学期間 (study abroad period)
2018/9/19~2018/9/29

記入日 (Date) 2018/10/4

留学レポート Study Abroad Report

1. はじめに

2018年9月19日から2018年9月29日の移動日を含めて10日間、IAVCEIが主催するカルデラワークショップ(VII International Workshop on Collapse Calderas Toba Caldera, Sumatra, Indonesia)に参加してきました。このワークショップには研究発表のセッションだけでなく、3日間のフィールドトリップが含まれており、私は追加のエクスカージョンにも1日参加したので、合計4日間現地でのフィールド調査に参加することができました。追加のエクスカージョンでは、Sinabung Observatoryの見学もでき、参加校の方々だけでなく現地の地質調査所の方のお話を伺ったり、議論することができ非常に有意義な時間を過ごすことができたので、以下に報告します。

2. IAVCEI Collapse Caldera Commission V II

IAVCEI(国際火山及び地球内部化学協会)は、火山学、火山災害および火成岩に関する岩石学、年代学、火山噴出物などの火山に関する諸分野の研究をする国際学会です(Wikipedia)。1919年に設立された国際測地学・地球物理学連合を構成する7つの協会のひとつであり、多数のワークショップを開催しており、今回私が参加したのはカルデラ研究に特化したワークショップでした。2年毎に開催されており、今回は地球上で最も大きいとされているカルデラ(トバカルデラ)のある、インドネシアで行われました。

私の研究分野の大きな特徴は、現地での観察が重要なデータであり学ぶ上で必要不可欠な経験になるということです。学生の間からこのような国際学会に一つでも多く参加して、現地で自分の目で堆積物を観察し世界中の研究者と議論することが今後の研究生活に大きく影響すると私は考えています。



写真1. ほとんど貸切状態でお出迎えしてくれたカルデラ湖内に位置するホテル



写真2. カルデラ湖内を船を利用して観察。熱い議論を交わす

★3. インドネシアでの地質調査と研究発表★

二日目以降の研究発表セッションでは、発表者の発言内容を英語で理解することに必死で、なかなか質問ができず、悔しい思いをしていました。2年前に参加した時よりかは英語を聞き取れるようになっている、と自分を励ましてネガティブにならないように努めましたが、同じ世代の研究者がハキハキと質問している姿を見ると、やはり情けない思いと悔しさが募りました。

現地でのフィールド調査では、露頭を前に集まった世界中のカルデラ研究者が交わす熱い議論に私も何とか混ざろうと堆積物を手にとって一緒に観察したり、何より目の前に堆積物があるので、それについての自分の考えを表現して伝えることに努めました。相手が何を根拠としてその論理を立てているのか、現地で一緒に同じものを見て議論することができるのが、フィールド調査のあるワークショップの醍醐味だと改めて感じました。

★ 今回、ワークショップに参加して英語力の必要性をさらに感じました。世界中の研究者と議論するために★

★最後に、このような機会を与えてくださった指導教員の先生と、国際学会 PLUS 奨励金制度に深く感謝申★
★し上げます。★



写真 6. 観測所に設置されているモニタリングシステム